

横浜市立洋光台第一小学校



学校だより

令和5年8月31日発行

令和5年度



思いをつなぐ子どもたち

校長 千本 恵子

夏休み明け、子どもたちの元気な声が響いています。笑顔で挨拶をする子どもたちは、ひと月ほど見ない間にひとまわり大きくなり、しっかりしたように感じます。夏休み中、普段とは違う生活や体験を通して、心身ともに成長したのでしょう。

今年には日本各地で盛大にお祭りが開催されました。日本のお祭りは、様々な願いを表現し、自然の恵みに感謝し、生きることを喜び、地域のコミュニティを育むために行われてきました。時代とともに地域によって形は変化しても、お祭りの果たす役割は共通しています。今年の夏は、洋光台のまちでも多くのお祭りが開催されました。三丁目のお祭りでは、6年生の有志がソーラン節を楽しんで踊り、盛り上げることができました。また、職員が訪れると、たくさんの子どもたちや町内の方々が声をかけてくれました。お祭りの盛り上がり子どもたちの普段にも増して輝く笑顔の中に、まちの方々との温かいつながりを感じました。そして、「地域のつながり」や「子どもたちの心に残るふるさと洋光台」のために自治会・町内会の皆様が尽力されている姿とその思いを子どもたちに受けとめてほしいと思いました。

さて、子どもたちがいない学校の花壇では、多くのひまわりが笑顔のような花を咲かせていました。3年生が地域の方から種をいただき、一緒に育てたひまわりです。子どもたちに花を見せてあげたいと、暑い日も学校に来て水やりをしてくださいました。猛暑の中で咲き誇るひまわりは、洋一小の子どもたちに元気いっぱいに育つたくましさを伝えてくれているようでした。



子どもたちは、人との出会いの中で様々な思いにふれ、共感したり伝え合ったりすることで成長していきます。洋一小の子どもたちが、だれとでも思いをつなぎ合える広い心をもった人に成長していくことを願っています。